

県本部・活動拠点本部会議(8月7日・夕)議事要旨

■決まったこと

●データ入力・事務局体制の集約化

・各支援チームの現地調査・データ(RAPID等)入力を全社協等の事務局担当スタッフ(応援要員)に一括委任・集約する運用を決定。

●来週(月曜～)の態勢移行と派遣人員配置

・リゼライト単独体制から熊本県内他法人 DWAT メンバーを合流・分散配置。各拠点(八代・宇城・氷川)に「熊本県 DWAT 3名ずつ(計9名/日)」を配置し体制を維持。

●会議・報告プロセスの効率化

・各拠点で情報を事前に取りまとめた上で全体会議に報告する形式へ移行し、時間の長縮化を抑止。氷川拠点における多職種合同会議: 翌朝 9:30 より役場・医療関係者(D-MAT等)・DWATでの合同ミーティングを実施

1. 各地域からの報告(避難人数、状態、課題等)

●八代地域

・巡回・訪問

→福岡県(福祉避難所「希望の里」等/避難者10名)、長崎県(有田小、在宅訪問7件/受診・入浴支援)、宮崎県・岡山県(八代東高、八代コミセン、昭和コミセン、八代保健センター、第五中等5件)、学園大チーム(日奈久コミセン、日奈久小、二見コミセン、鏡小、鏡中)。

・動向・変化

→八代支援学校が閉鎖し鏡中学校へ合流・集約。「希望の里」では夜間帯(20時～8時)支援にジャパンハートが入る体制へ。

・个案・課題

→視覚障害のある高齢母と脳性麻痺の息子の世帯。母親の眼科手術(8/28)決定に伴い、術後の見えづらさに対する介護体制(一般避難所での介助限界・退所先確保)が懸念される。

●宇城地域

・巡回・対応

→不知火防災拠点センター、小川防災拠点センター、松合東、ウイング松橋の4

ヶ所を訪問し環境改善対応。香川県チーム（4名）受入。

- ・宇土市の動向

→宇土市内（避難者 223 名）で来週 11 日（月）より避難所を「1ヶ所（市役所・武道館周辺）へ集約化」する動きあり。武道館（福祉避難所・6名）等のアセスメントを実施予定。

- ・被災施設

→不知火のグループホーム利用者は応急危険度判定等を経て自施設へ帰還（10名）。住宅型有料老人ホーム避難者（8名・骨折者 1 名含む）のフォローが継続課題。

●氷川地域

- ・巡回・体制

→佐賀県チーム合流。「竜北東小学校」等を訪問し、拠点管内避難所の全件一巡（コンプリート）が間近。DMAT 統括（早川医師）の参入により入退所連絡・判定のホットラインが確立。

- ・緊急対応（JRAT 連携）

→40 代女性（右足骨折・松葉杖）、70 代女性（膝関節術後）の 2 件について、移動環境調整や不安軽減のため JRAT へ接続し迅速支援。

2. 確認事項・共有事項

●「避難者数ゼロ」表記の扱い（潜在避難者の把握）

- ・二見コミセンで公式発表「昼 3 名」に対し「夜間 30 名滞在」の実態が発覚。公式発表が 0 名でも昼夜の変動や移動手段のない在宅避難者が潜在している可能性があるため、巡回対象から安易に外さず実態確認を行う方針を共有。

●拠点支援者の配置

- ・1 週間程度、ロジ・事務入力・戦略策定補佐を行う支援者を各拠点 1 名配置を調整中。

●取材・報道対応ルール

- ・原則受入可能だが、「自治体・避難所の許可」および「被災者本人の同意」を前提とし、初回訪問時の同行は避ける。判断に迷う場合は本部経由とする。

●医療受診・制度周知

- ・厚労省より「保険証・現金が無くても受診可能」な旨の案内紙面あり。在宅・車中泊避難者等へ周知を図る。

●DMAT 縮小への対応

- ・DMAT 隊の順次縮小・撤収に伴い、福祉側への引き継ぎを強化。

(参考) 被災福祉施設の実態：日奈久の被災施設（全室個室が沈下・傾斜により居住不可）において、男性は一戸建て、女性は倉庫風スペースで不自由な生活を余儀なくされており、お盆明けより他県から週 2 名の職員応援が入る予定。

3. 今後の方針

- 個別支援・追跡フォローへの移行

- ・一次アセスメント一巡後、骨折者・要介護者・術後者等に対する「個案対応・環境調整・JRAT 等専門職接続」へシフト。

- 県内 DWAT 混成体制の安定化

- ・他法人職員との混成チームで常時「各拠点 3 名」を維持し、長期派遣に耐える持続可能な体制を確立。

- 避難所再編・集約への柔軟な対応

- ・宇土市・八代市などの避難所統合・集約の動きに合わせてアセスメントチームを重点配置。

- 多職種・関係機関とのネットワーク維持

- ・D-MAT、J-RAT、ジャパンハート、地域包括支援センター等との密な情報連携・ホットライン運用を継続。